

介護職の虐待最多 739件

コロナ、人手不足影響か

厚生労働省は23日、介護事業所職員による高齢者への虐待が2021年度に前年度比24・2%増の739件だったとする調査結果を公表した。自治体への相談・通報件数は同14・0%増の2390件で、ともに過去最多を更新。職員の虐待による死亡は2人だった。新型コロナウイルスへの感染防止対応などによるストレスや、現場の人手不足を背景としている可能性がある。

虐待の発生要因（複数回答）は「教育・知識・介護技術に関する問題」56・2%、「職員のストレスや感情コントロールの問題」22・9%、「虐待を助長する組織風土や職員間の関係の悪さ」21・5%の順だった。厚労省は虐待の順だった。

虐待の発生要因（複数回答）は「教育・知識・介護技術に関する問題」56・2%、「職員のストレスや感情コントロールの問題」22・9%、「虐待を助長する組織風土や職員間の関係の悪さ」21・5%の順だった。厚労省は虐待の順だった。

調査結果によると、虐待の種類（複数回答）は暴力や拘束といった「身体的虐待」51・5%が最も多く、暴言や無視など「心理的虐待」38・1%、放置などの「介護放棄」23・9%が続いた。家族や親族による虐待は、21年度は同4・9%減1万6426件。37人が死亡した。自治体への相談・通報件数は3万6378件で過去最多だった。虐待の加害者は男子38・9%がトップで、夫22・8%、娘19・0%の順となつた。

福井県は23日、2021年度の県内の介護施設職員による高齢者への虐待が前年度と同じく2件あつたと発表した。

県長寿福祉課によると、1件は入所者をトイレに誘導する際に無理に引っ張つたり、厳しい口調で対応したりした。もう1件は食事の際に車いすを動かないよう固定した。

家族や親族からの虐待は所で過去に虐待が起きておらず、改善の不徹底も明らかになつた。

調査は高齢者虐待防止法に基づき、06年度分から実施。自治体が虐待と判断し

厚労省、21年度

